

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第11回）「キャリア教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年6月8日(火) 午後3時12分～午後5時00分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	廣嶋憲一郎、小野雅保、世古徳浩、望月徳生、根本裕美、飯塚剛、高橋吉久（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事、鈴木裕行 指導主事

1 挨拶

事務局

お手元に協議資料を本日の予定も含めて用意した。情報提供させていただき、本題の委員先生の方原稿の検討に移りたい。

また、区内小・中学校のキャリア教育全体計画を用意した。今年度、キャリア教育の形で各校が初めて全体計画を作ったので参考に出したが、十分でない部分もある。練馬区全体においてもキャリア教育をどう進め、広げていくのかを考えなければいけないという視点で、現状を把握できればと思う。

また、新潟県上越市のキャリア教育の取組を視察しているので、資料を用意した。いろいろな地域でそれぞれ取り組んでいるが、小中連携の視点でいくつか拾えるかと思う。時間の関係で全てをご覧いただくことは難しいが、特にA3版の「上越市のキャリア教育テキスト」と、その直前に入っている同じくA3版の上越市立雄志中学校の「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（試案）」がある。小学校、中学校の流れの中で検討したものである。本日の協議事項と直接の関わりはないが、今後の参考になればと思う。

2 協議

事務局

では、早速、委員先生に用意していただいた資料を基に検討に入る。まず説明をお願いする。

委員

いただいた宿題4枚のうち、2枚は見開きで実践の内容、残り2枚が資料的なものとの指示だったので作ってみた。項目は前回の事例の項目とあまり変えていない。

①がタイトル、②が実施学年・指導時数、③がねらいである。④はキャリア教育との関連、⑤は小中一貫校における効果である。小中一貫校だからこそとてもよいという点に触れられるといいと思い、内容的にはまだまだ不十分だが新たに起こした。調べてみたところ、岐阜大学の先生が小中合わせたスタートカリキュラムをやっていたので、話を伺おうと思っている。そして⑥が本事例の概要である。⑥は単元のあらましと事例に見られた児童の姿ということで、同じように項目を立てた。

それから、指導上の配慮事項として、次のページの資料で何が表れるかを簡単に示した。内容は普通の学校探検に加えて、「中学校も探検しよう」「大好きみんなの小学校」のところに入

れた。これが1～2ページの活動の概要である。

次に、3～4ページのカードは、現在、本校で実際に使っているもので、名前も入っているものである。小単元1で使う「なかよしいっぱいカード」は、サインをしてもらって友だちを増やすことを目指したカードである。あまり小さくない方がいいと言われたので、半分のものと使い方を示した。下の部分は「伝えたいよ 学校のすてきカード」の半分のものである。実際に子供たちが使うB4のものを縮小して入れた。

また、単元のあらましの資料①で、実際には教室配置図などを使って子供たちが書いた言葉やカードなどをまとめていくとよいと思い、提示した。暗い教室で写真を撮ったので見にくくて申し訳ないが、実際に使った実物を入れるとよいと思い、枠を半分にして起こした。

それから児童の実際の反応を入れるとよいとの話もあったので、どこに入れるとよいか迷ったが、資料ページを2ページにして起こした。内容的に不十分でもよいとの石井校長先生の話だったので、全体の枠を考えてきた。

部長

委員先生のこの原稿は、この間の原案のバージョン2になり、一つのたたき台である。単刀直入に、⑤「本事例の小中一貫校における効果」が、今までは一貫校という形では入っていなかったので非常に斬新だと思う。これを今回の作成資料の一つの売りにするのか、あるいは小中連携なのかどうか。

例えば小学1年から中学3年までの9年間を見通したキャリア教育の計画の意義になればそれはいい。あえて小中一貫校にするので施設の問題や両方の学校での探検活動など、5年生から8年生あたりの効果がここに書かれていると思う。その効果が一つの仮説となって指導計画に沿って授業が行われ、次のページの「ともだちになろうよ」から「大好きみんなの小学校」ができる。

「事例に見られた児童の姿」の中で、小中一貫の課題と成果に多少触れられるのか。こういうねらいでやりましたというのがどこか後に入ってくればよいと思う。

小中一貫校におけるキャリア教育の効果は、資料を斜め読みしてもあまり書いていない。キャリア教育を9年間に渡ってやる効果も分かるが、小中一貫教育におけるキャリア教育の子供の育ちのよさを取り出すのはなかなか難しい。逆に言えば、委員先生のたたき台を膨らませて、この事例の効果を出せれば独自性になると思う。

委員

実際にまだやっていないので成果と課題とした時にどう書けばいいかわからなかったので、今の学校探検をそのまま入れた。この間、アドバイザー先生に中学の探検も小中一貫だから意義があると繰り返し教えていただき、やはり何か小中一貫でやる意味に触れられればと思い、この項を起こした。

事務局

実践していない部分なので、表現としては「期待される姿や効果」と言えるかもしれない。

アドバイザー

これはどういうスタンスで書くかの問題である。実践したものでも、実践報告の形では出さない。結局、小中一貫校が実践してくれるかが問題なので、去年は簡単な子供の姿などをあえて出したが、今回はもう出す必要はない。要するに、授業がやりやすいようにワークシートを付けてプランを出せばいい。大事なのは、見てすぐに真似ができるかであり、見てよく分からないのではちょっと困る。それから実態に合わないのも困る。これを見れば簡単にできるし、成果が上がるからぜひやってくださいというメッセージを送りたい。委員先生原稿の吟味は、そうになっているかどうかである。

委員

そうすると、要らないところと入れなければいけないところがいくつも出くると思う。

委員

中学校を探検する時に、例えば似ているところでは教室など施設・設備的なことや人物、主事や先生があると思う。違うところとして1、2年生ぐらいの子供たちから出るのはいかか。

委員

机の大きさとか制服を着ているとか。岐阜大学における中学校の探検の事例を読んでも、例えば水道の高さなどでは、「僕たちの学校は僕たちに合わせていて、だから僕たち小学生でよかったね」で終わったという事例報告が挙げられている。多分そのように、自分の学校や自分の居場所への愛着に帰結していく気がする。

部長

保育園や幼稚園にいた子が小学校に入ってすぐ小学校の一斉授業にまず触れて、そのレベルでの小学校の探検とは違う中学校までの探検となる。そうすると普通は別々なので「中学校を探検しよう」となるが、小中一貫校の場合にはそこまで踏み込んで書いていいのか。

委員

私は敷地が一緒に建物が別のイメージで考えていたが、実際は建物も一緒なのか。

委員

建物は分かれているが、1階の廊下でつながっているので隣の学校に行く雰囲気がかまわないと思う。それから1年生から4年生は小学校の校舎に残り、5年生と6年生が中学校の校舎に来て、1・2・3・4と5・6・7、そして8・9という区分けになる。

そのような意味で、今までを振り返ることが中心だった二分の一人式も、新しい校舎に入る「入校舎式」と位置付けていく。「よし、これから中学生と一緒に教室に行くぞ」という心構えをつくる一つの必要な区切りになるかと思う。逆に、今行われている6年生の卒業式は大々的に客を招くのではなく、卒業証書を渡すだけになるので、5年生で校舎を移る時が一つの大きな区切りになる。

事務局

今回の大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校の場合は施設が一体だが、今後方向性が打ち出されて施設分離型でもやっていくとなると違ってくるので、「中学校の校舎」などの名称はひとまずこのままでいいと思う。小中連携に置き換える学校もあるかもしれない。

部長

「単元のあらまし」の筋を小中一貫で通すのか、連携で通すかの方が分かりやすい。それは他の部会でも話題になっていないのか。

事務局

今のところほどの部会にも大泉学園桜小学校と大泉学園桜中学校の先生が必ず1人いて情報提供してもらっているが、2校目あるいは小中連携を強化する話の中では、あまり触れられていない。

部長

そうするとそもそも論になるが、この小中一貫校における事例の実際の効果をどのぐらい書くのか。通常、子供たちは日常生活で上級生の校舎にあまり行かないのか。

委員

4年生が上級生の校舎に来ることはまずない。5、6年生は中学の校舎に来るのでかなり似通っているが、4年生まででまた一つつくる感じになる。いくつか共通のものをつくり上げようと動いている。はっきり言ってゼロからつくるのは大変なので、今あるものをどう合わせられるかを検討している。かなりの部分、既存のものが開校時に残ることになる。

部長

特にこの事例は学校探検というものが如実に出る事例になる。今まで学校探検は学校生活の場である小学校の6年間でやってきてそれで十分だった。小中一貫にした時には学校生活の場は1年から4年までがある程度中心となり、もしあえて5年から中3までを探検するメリットがなければ、小学校1年生の春の段階ではむしろ4年生までのところで自分たちの居場所を分からせるだけで十分かもしれない。中学校の校舎まで行くには当然、それを越えるだけのメリットがあるような書きぶりにしないとまずい。

心配なのは、1年生の1学期の春に中学校まで広げるかどうかという点である。1年生の生活が大体分かる秋に、いつも見ているあの校舎いったい何だろうと素朴な疑問や不思議さが出てきた時に探検や冒険に行くと「ああ、そうなのか」と落ちるかもしれないが、4月当初ではそこまで意識化するかどうかはわからない。

委員

本校の1回目は普通のスタートカリキュラムの探検で、2回目は保護者に説明する探検、最後は新しく入学した児童を案内しての探検と3回の学校探検をしている。もしこれが採用されるのならば、そのようにバージョンを変えて、時期を変えながら年間を通して実践することは

できる。

事務局

ステップ1、ステップ2のような形もある。

委員

今、教えていただいたように、いつも見ているあの建物にはいったい何があるのだろうかという形で興味・関心をもつように変えていける。

部長

この授業の部分だけで20時間分のうちの何時間ぐらいになるか。

委員

これ全体で20時間である。

委員

3回ともどのくらいやるのか。説明する対象が違うことによって、さらに入手しなければいけない情報は増える。その観点の投げかけなどにどのくらい時間数を費やせるのか。

また、今の話の中にある⑤の小中一貫校における効果のところだが、今まで通りの小学校であれば1年から6年までの縦割りの中で6年生が1年生をお世話し、そこでの絆が生まれ、1年生にとっては6年生が身近な存在であった。そこで、僕たちも将来こうなるだろうという見通しをもてたが、小中一貫ではⅠ期・Ⅱ期・Ⅲ期のカテゴリごとの絆ができることにより、もう少しスモールステップになる。その辺でどういう内容を盛り込めば、小中一貫で将来に対する見通しをもたせられるか。先ほど、ここまでやるメリットのような話があったが、その辺の場面設定にどう説得力を持たせるか。

アドバイザー

入学した1年生が行事などで中学生とかかわる場面は早い段階からあるのだろうか。

委員

1年生から9年生までの関わり合いの一つは、いまは運動会を通じての交わりである。

運動会は5月から6月ぐらい、場合によっては9月から10月になるかもしれない。それから小学校にあった縦割りの連携を1年生から9年生まで伸ばして、飯盒炊さんができないか考えている。

アドバイザー

そうすると縦割り班的な活動は早いうちにやることになる。

委員

6年生から9年生までと1年生から9年生までの2段構えにして、9年生の指導のもとで6

年生までが、6年生の指導のもとで4年生までがすぐ近くの中央公園の施設を使って飯盒炊きさんをして、1年生から3年生までは近くを歩いてくるような遠足をするなど、みんなが一堂に会する場をつくり、ご飯を食べて低学年は遊びに行く。そんなことができないかと今考えている。

アドバイザー

そうだとするとやはり委員先生のプランでいい。いくつも細分化するのではなく、集中的に小学校4年生までの校舎の探検が終わったらそこで何らかの形で一つ区切りをつけ、小学校と中学校を比べる視点を子供にもたせながら、引き続き隣の校舎に探検に行く。確かに薄まるかもしれないが、この活動自体はゆくゆく地域にも出て行き、子供たちがいろいろな人とかわる一番の基礎になる活動だから、地域に出るよりもまず近くにいる中学生の校舎に行き、かかわる。先生が書いているコミュニケーション能力を広げ深める目的が、この活動にはある。

一方では日常の活動として、いま委員先生がおっしゃったような縦割り班的なものが出てくる。すると教科の学習と小中一貫校としてやろうとしている日常の活動がちょうど重なり、ものすごくいい効果が出ると思う。そういう情報をいま私たちは初めて聞いたので、それも今度書き込めばいい。中学生の教室を見てまわったり、中学生に声をかけられたり、少なくとも中学生は歳が近い子には乱暴だが小さい子には結構優しい。そういう中学生のもっている本当のよさがそこで出てくることも期待できる。リトルティーチャーと同じ。

部長

縦割りの飯ごう炊飯なり小中の運動会なりでどこかの具体的なお兄ちゃん、お姉ちゃんとかかわり、そこで愛着までいかななくても何人かのキーパーソンができてあのお兄ちゃん、お姉ちゃんが生活しているのはどこという素朴な気持ちが1年生に出た時に、今度は中学生側がようこそ1年の皆さんと呼ぶ。やあ、僕たちはこういうところだよというようにここに人が入ると、1年生の認識は物対自分よりも、中2、中3の子供とのかかわりの中でこういうところで生活しているのだとつながる。リトルティーチャーもそう。

アドバイザー

「ようこそ1年生」という発想もいいかもしれない。

事務局

この「学校大好き」に対応する中学校側の学習活動のイメージをちょっと書くと、ずいぶん膨らむ。

委員

あと、実際に去年から始まりつつあるのが、小中合同の避難訓練。9年生が長になって全員の点呼をとり、途中まで引き連れて帰り、いろいろなところで集合させる。フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションは作られつつあると感じる。

アドバイザー

日常生活が1年生から9年生の間で行われるのが一貫校の特徴だから、こういう形の探検は必要。むしろこれがないと困る。それをこの原稿で強調したらどうか。

それからもう一つ私が先ほど言ったのは、例えば指導計画の1枚目は面倒だから読まない人がいてもいい。2枚目の指導計画をパッと見てやってもらいたいわけで、これだけの情報でやれるかを考えると、今回は児童の姿などは要らないから、プランを丁寧に書いたほうがいい気がする。

その時のポイントは先生が書いていたが、学校探検の前半では「見つけたよカード」「発見カード」などのワークシートを出して子供の発見を促す活動をたくさんし、そして中学校では最初に4年生までの校舎をまわって見つけたことと似ているところ、違うところをきちんと強調して、意図的に比べながら探検できるようにワークシートを工夫すると、やってもらえるかと思う。

委員

そういうワークシートを考えて作る。そうするとそのワークシートをちゃんと作って後ろに入れられる。

アドバイザー

3ページの「つたえたいよ がっこうのすてきカード」のほうは分かるかもしれないが、「なかよしいっぱいカード」は小さすぎるのか分かるようで分からない。この詳しい説明が指導計画の中に必要。資料1がこれと対応するようにワークシートをつける。事務局が前に言ったのは、指導計画をワークシートと対比させながら使われるものにしたいというイメージだ。

事務局

あえて教科書にしないで、そのページだけプリントアウトしてそのまま使ってもらいたい。

アドバイザー

指導計画の中の資料1とか資料2がワークシートに対応し、そのまま印刷して使えるようにすればいいかと思う。4ページ組みだったろうか。正味、事例は60ページで、10事例出すとすると6ページぐらいかなと言った気がするが、記録ではどうなっているか。

委員

4ページが基本となっている。

委員

ワークシートを小さくするかそのままの大きさにするかもちょっと迷ったのが、6ページならそのままの大きさにいける。

部長

1年生はそんなに書けないから丸をつけたり塗りつぶすとかお絵かきの要素も少し入れる

と、やはり1枚。

アドバイザー

縮小すると分かりにくいから、そのまま原寸大で入れたほうがコピーして印刷できるし先生方は使いやすい。わずかな手間だが、学校の先生はみんな忙しい。4ページ組みだたすると、事例の考察は入れられない。指導計画をつけて、それに対する資料ないしワークシートを2ページに入れたら終わり。

部長

先生がワークシートを見れば、紙芝居ではないがこれとこれを使って大体何時間分の授業と活動の内容かは大体分かる。

委員

そうするとワークシートは2ページでは足りない。

事務局

私の最初の意図では紙とデータ両方要するというので、ページ数を厳選するか、あるいは思い切ってこれだけ必要なのとやるしかないかと思う。

アドバイザー

一番基本になる小学校を探検する時のワークシートと、中学校を探検する時のワークシートの2枚で済むだろうか。

委員

生活科では比較とかいろいろ出てくるが、探検にしよれば2枚で済む。でもほかの長い单元などの事例でどんどん書いていくようなところだと、ワークシート2枚では足りない。

アドバイザー

ワークシートを3ページにして。そうするとねらいなどは書けなくなる。

委員

何もなくなる。これをもっとぎっちり書くと1枚になる。多分1枚は必要だと思う。

アドバイザー

この表現の部会のサンプルは、ねらいだけ書く指導計画なのか。

事務局

それはとても粗々なのでもう少し足す。本当の踏み台として作ったので、おっしゃる通りこれでは足りない。

アドバイザー

これに教科との関連が入るのでまさか指導計画がこのスペースで済むわけではなく、2ページは要る。いずれにしてもねらいとか、今回委員先生に書いてもらったようなキャリア教育との関連とか小中一貫の位置づけなど、要するに普通の単元設定の理由は要らないからキャリア教育や小中一貫でこの単元はこういう意味があるのだということを書いているわけで、それはそれでいいと思う。あとは指導計画を1面全面で20時間分ならその分を入れて、その中のポイントに資料の表示をする。そしてその資料が何枚つくかだ。4枚つけば6ページ、2枚なら4ページ。

事務局

4ページベースで総枠60ページにすると15事例、6ページベースなら10事例。

ちなみに心の教育の推進部会は昨日、15事例で分担が終わっている。ただページの割り当てはしていない。

アドバイザー

道徳で10事例ぐらい出てくる。

部長

小中一貫の効果が出るような道徳の事例なのだろうか。

事務局

9年間を考えた時にこの時期にこれを学習しておくことでその先に進むとストーリーがあるというのが、心の教育の推進部会のコンセプト。

部長

そこはコンセプトがそれであれば一番楽。要するに6足す3をあえて9にしたと言い切ってしまう方がいい。いま大事なのは委員さんが必死に考えたこれが、中学校と小学校の比較対照は小学校だけではできないというメッセージを入れた事例でなければいけない。そこはほかの部会にも多少合わせてもらって、やはり1例か2例は考えてもらわないと厳しいと思う。

小中一貫だからこそうだという説得力のあるペーパーを下ろさないと。「ようこそ1年生のみんな」でもいいが、かかわりをどこかに入れていかないといけない。

事務局

例えば中1の1時間の校舎見学が要らなくなるから5学年でやろうとか、その時にどんな工夫をするかが必要になるかもしれない。あるいは表現力の部会では1・2とか3・4など近い学年での交流ではなく、3・9とか2・8とか1・7とか離れた学年での異学年交流など一貫教育校ならではのものを提案していこうと考えている。

アドバイザー

心の教育部会には道徳以外も入っているので、道徳は2学年では難しいけれども特活や総合

だと小中学生が部分的に交流しながら授業でき、それを想定している可能性はある。

事務局

例えば自尊感情のところグリーン運動を核とするとか。これからやれることもあるが、今やっていることをどうやって一貫教育校の中に生かすかという視点でどこも考えている。

アドバイザー

体力の部会でもできそう。この委員先生の事例はまたがって入るのでぴったり。6ページでなければ駄目ならばとりあえず6ページにする。4ページがあっても偶数ページならいい、そういう考え方でいいだろうか。もう少し進んだところで事例の数や何ページになるかはつめる。

部長

例えば小学校1年生のワークシートが3枚になったら、中学校も何らかの教育活動でかかわってくるので中学生用のワークシートも1枚入れる。相互で使えるワークシートを重層的に考えることも必要かもしれない。

アドバイザー

私の感覚では、生活科はひよっとしたらワークシートが4枚あったほうがいいのかもしいかな。例えば今日委員先生が持ってきた部活体験はワークシートなどの問題ではなく、両方で部活をどうやっていくかを示せばいいわけで、4ページも書けないかもしれない。あるいはリトルテチャーはとて6ページなど要らない。4ページを基本にして、足りない場合は6ページもあるから相談して、そうしたら事例を若干減らすぐらいの感じか。そのうちの2ページについては今日委員さんが提案してくれたような感じで作り、残りの2ページは資料やワークシートを入れる。

委員

逆にワークシートの充実を考えるのであれば初めから6ページで、事例を減らす方向で考えたほうがいいのかもしいかな。

アドバイザー

ただ部活体験なども載せたいが、逆に多分6ページは無理。2ページでもいいかもしれない。

事務局

体力の向上部会でも部活の話をするかしないか、キャリアでもやっていますというのがあるが、その辺りの整合性はどうか。

アドバイザー

体力部会は文化的な活動は入れずに運動系統ばかりで、私たちは総合的なかかわりの中で出すから、こちらが先に出してしまえばいい。

事務局

例えばそういう取り組みをする時に実施要綱を一から考えるので、こういう資料に入っているといいかも。体力向上部会は体力向上部会でいろいろやりたいことがあるので、もしそれをキャリア教育で入れてくれるならこっちはなくてもいいとなる。

アドバイザー

時間がないので先に話すが、今度はどういう事例を次に提案してもらうかにかかないと。

委員

そのお話で先ほどから出ているが、中学の部活も小学校側と中学校側のカップリングした指導案が出ると、すぐ両方で一緒に集まってできると思う。

委員

実際にいま運動会の練習で、中学校の男子の体育の先生が今年新任なので、2年生が小学校の先生を中心に組体操を教えてもらっている。そして徐々に、小学校はこんなに小さかったんだ、この中でおれたち6年間過ごしてきたのだという意識を抱く。そして6年生が入ってくると、いい顔しなくちゃときちんとする。中学生が小学校へ行くような何かきっかけを作ると、相互乗り入れになっていく感じがする。

もう1点は小学校の社会科見学その他で、5年生と7年生で鎌倉あるいは川越遠足ができないか。それから6年生と中学校3年生で国会議事堂、裁判所ができないか。そんなプランをいま模索し、練っているところ。

アドバイザー

極端に言えば、5、6年生が移動教室でそれぞれ区の施設を使っているので、その時に一緒に行く。片方の学年は海に、片方の学年は山に行くけれども生活は一緒、行き帰りは一緒。でも中身は違うというのも実際にできるのではないかと模索している。

事務局

ちょっと変更を整理すると、4ページが基本で、ワークシートや中学校の学習活動などが入ると6ページもあると弾力的にいくことでよろしいか。小中一貫校における効果、期待される姿も説明に入れる。それから、今カップリングの話があったが、小中が同じ事例に対してどう教育活動を行っていくかという発想をすると、それぞれである程度教育活動を計画しなければいけないので、これを入れるか入れないかは結構大きいと思う。また事例によってはその必要のない事例もあるかもしれない。それによって役割分担もだいぶ変わってくる。

部長

2番の対象学年には小学校1年とか2年と書いてあるが、部活の場合には小学校5、6年生及び中学校1～3年生と書いてある。軽重つけるのであれば、中学校はなかなか書ききれないかもしれないが、一応3パターン考えざるを得ないのではないか。これならわりと中学校側でも何か作れるかもしれない。行って、招待して、連れてくる。中学生が小学校へ行って説明し

ながら見に行くのであればできないことはない。相手側の学習活動がわりと書きやすいのはそれでいく。これを見ると十何種類の中にはそもそもの授業だけで終わってしまうものもある。

できるかできないかは先にこれだと言うのではなく、事例を読み込んだ時に担当の先生にお考えいただくほうがいいのかもわからない。

事務局

可能であればということで、とりあえず今日の委員先生の事例では考えられそう。例えば先ほどの小中一貫校における効果を含めた説明で終わる可能性もあるし、ワークシートの中学校版を1枚入れることもある。いろいろ工夫はできる。押さえとしては今のような形で、委員先生の流れに沿ってほかの事例も作っていくことでよろしいか。

アドバイザー

そういう理解でいい。全部決められるかどうか分からないが、今日は委員先生、委員先生が来ているのでできれば特別支援学級関係をどうするか辺りについて、見通しをつけたらどうか。そして次回そこを提案してもらおう。

部長

まず先生方から立候補してもらい、ここは書き込めるよと少しずつつぶしていったほうがいい。

事務局

やはり書きやすいところ、十八番があるし、前のこちらプラスαになると思う。

これはもしかしたら今のこれを受けると5年生ぐらいになるとか、もしかしたらこことちょっと違う、想像とか希望をもつ、だからちょっと違うかもしれない。

委員

これは6年生でいいと思う。中学校生活ということで、抜ける子たちもいる。

アドバイザー

事例3は委員先生。

委員

部活動については少し膨らませて考えてみる。

アドバイザー

事例5「働くってなあに」は委員先生。事例6「仕事に挑戦しよう」が委員先生。これは手直しすれば大丈夫。そうすると事例4が確か野田先生。これはどうしても要る。いま事例が五つあるが、事例2は「<長所を伸ばす>道徳」「マンガ家になろう」はどうか。

事務局

岡本副校長先生が作ったと思う。

アドバイザー

事例2はものになるかどうか分からない。事例五つは大丈夫。最低でも10個、できれば15ぐらい候補を挙げておかないといけない。4ページだとすると15個。

部長

最大でも、 $5 \times 6 = 30$ ページ。

アドバイザー

6ページにして10事例ぐらいに減らしたほうがいいのかもわからない。

事務局

一つで長い事例があるので、1単位時間で考えれば980分の1だが、委員先生の20時間を20単位時間と考えると相当な分母になるので、あまり事例数にこだわらないほうがいい。

部長

確かに学校探検があるから。委員先生、やる可能性は十分あるだろうか。

委員

縦割りの意味からも十分、意義は考えられる。

あと実際問題、今は中学校と小学校の校舎が分かれていて外側から入るので何の接点もないが、今後は校舎の真ん中に道を作ってそこが通学路になり1年生から9年生が通るので、年中「おはよう」とか「お兄ちゃん」とかできる。だからすごく意味をもつ。

事務局

これが敷地で、中学校の門はここでもう入ってくる。小学校はここが門なので子供たちはこう入ってくる。でもここに新しい小中一貫の新しい門を作ってそこから入り、ここがタータンになっていて校舎の前で小学校、中学校としよう。そういうイメージで日常、あの人は誰とか、あと朝礼もおそらく一緒にやっていくと思う。集会はまた別だが。入学式や始業式は小中一貫校になった時には変わるのかもしれない。

アドバイザー

とりあえず次回持ってきてもらう事例を決めたほうがいいのではないかと。委員先生のサンプルのような感じでとりあえずみんなに1事例ずつ作ってもらう。いま挙げた事例はとりあえず基があるからやりやすい。それを4ページ仕立てでやるのはどうか。

部長

特別支援学級の書きぶりはどうするか。去年はこうやっていたが、今回小中一貫で特別支援

学級のイメージをどのぐらい書きこむか。ほかは入っていない、ここだけ。だから独自性は出せる。将来の特別支援学級併設小中一貫校を想定してだろうか。

事務局

ないとは限らない。いま特別学級を開設する学校が増えていることを考えると、大事な視点。ほかの部会はそれが合わせられなかった。

部長

今回はそれを想定してしまっていないのではないか。それが併設された前提でこれができる。その時の中学生と小学生のかかわり。小学校は固定級とか、あるいは情緒障害でもいい。

委員

中学の特別支援学級の立場から通常級を見ると、特別支援学級があった小学校から上がってくる通常の生徒と特別支援学級の固定がなかった学校から上がってくる子とは、やはり交流をやりようと言った時に違いがある。その辺でちょっと問題提起しながら、小さいころからそういう子たちに触れることによって大きくなってからかかわりを強く持てる、地域で育っていけるところを突く。

アドバイザー

それを今日の委員先生のではないが、小中一貫の効果、意義に書くといい。

委員

あともう一つリトルティーチャーのところでもおっしゃたが、ネタが問題。うちも近隣の別支援学校と交流するが、障害の程度に雲泥の差がある。一番障害の重いところでは例えば太鼓と笛と踊り、あとちょっと上になると風船バレーをやったり、校舎内や近隣を車椅子でまわる、あるいはお料理教室をやる、新聞相撲をやる。この障害の程度の子だったらこういうことができ、そういうことで交流を図りましょうといくつかのメニューがあり、それがなくて何をやるか全く何も分からない。情緒障害などいろいろな部分があるが、こうやると交流ができ、中学生が入れる、支援学級の子が入れるというメニューを出すことも非常に大事。

あと季節的に、餅つきをやった時に半券でやり取りし、実際にお金はないが周りの子たちがそれを買うとか。そうしたものがあると実際に交流できるだろうと感じる。

部長

確かに、うちも情緒障害の場合コミュニケーションが口で出ないので、卓球もそうだが、スポーツゲームで体を動かす。この間はスポーツ吹き矢も入った。

だからやはりメニュー。あと辞書はなかなか難しいので電子辞書を使って英語をやっている。トランポリンを入れたり、コミュニケーションの道具は意外とある。委員先生も大変造詣が深いので、少しそういう写真でもイラストでも入れれば、やはり物があるのとないのでは。そのヒントは大きいと感じる。情緒障害学級に通っている桜中のお子さんが結構いると木下川委員先生からも聞いているから、そういうコミュニケーションツールを紹介することは今後も考えら

れる。今これだけ情緒障害学級の開設に力をいれているので。

教具というと通常の先生方は使っていないのでなかなかイメージが出ないが、当然特別支援学級の先生方だから魅力ある教具もある。これは小学校の低学年などでも使える可能性がある。

事務局

開設が決まってからどんなものがいるのというのは実際にある。今まで通常の学級しかなかったから特別支援学級の先生にこんな話をしてもらおうとか、やはりそれなりの準備がある。そういった意味でこの事例はいろいろなところで活用される。

部長

アイデア集みたいなもの。ではさしあたって次回その辺りを持ってきていただく感じでいかがか。

事務局

事例一つずつについては、いらっしゃる方々はいま確認できた。野田先生にも連絡して作っていければと思う。あとにプラスαでこの事例はやれるぞという二つ目がもしあれば、お声をかけていただきたい。

部長

リトルティーチャーの材料なら集めて組み立て、あまり難しくなくビジュアルにできないか考えてみる。写真からイラストを起こしてくれる方はいるか。例えば写真でこういう教具ですといった時に、簡単にイラストに直してもらおう。

事務局

その辺の参考資料を頂ければ作れるかもしれない。ではとりあえず次回は委員先生の手稿を基に皆さんにお持ちよりいただく。細かい表現などはまた全体を通してそろえていくので、作りながら引かかったところは次回報告していただき、ほかの部会にも関係するので確認していきたいと思う。

本日の協議で、全体としてこれだけはという部分はあるだろうか。

委員先生が⑤で起こした「本事例の小中一貫校における効果」だが、私が全体会でお話しした指導計画の指導案では「各教科、領域との関連」という形で非常に簡単な項目しか書かなかった。だがやはり9年間で今後のつながりや前の学年とのつながりを考えた時に、こういう言い方ではなく「この事例を小中一貫教育校で実践した時の期待される効果として」とか、「今後の学習にこんなふうにつながると期待を込めて書いている」というような書き方にしなければいけないなと思った。

部長

やはりここまできたら一貫校。これが出ていて連携でやると言ったら、じゃあなんとでもなるとなってしまうから、知恵を絞るとしたら一貫校ではないか。いま委員先生が先生方に全力でサポートにまわれると。あとのことは後でもできるけれども、今これをやるのは切実。

事務局

どの部会も一貫教育校、桜小中を絶対に片隅においてやっている。その分、これだったら使えってもらえるという意気込みで皆さんやっている。この辺りはほかの部会にも提案し、また鈴木指導主事経由でお伝えする。

委員

先ほど大きな区切りになるとおっしゃっていた二分の一成人式は事例を挙げなくていいのか。

事務局

実は表現力の部会においても、心の教育推進部会においても二分の一成人式は重さがあるので、もし9年間における4学年でやるものが各部会から提案されるとこの後が難しいかと思われる、別項目を立てるか何かの対応は必要である。

部長

二分の一成人式のこの部会案で出た中で、現実問題として桜中がどれかをチョイスするかもしれない。表現力を重視した形で実践しよう、あるいはキャリアのほうで実践しよう、そこは学校の先生の裁量だから、それを一つにまとめてしまうと切り口が一つになり、チャンネルが減ってしまう。ならばチャンネルを増やしておいて、バージョンを変えて作ると、チョイスできる。

事務局

もともと桜小中のカリキュラムを作るために集まっているわけではないので、そちらのほうがいいということなら現行のまま進めて、部会のねらいがより分かるご提案を頂く。

委員

そのほうがいいと思う。実際にこの間も桜小中の実行委員会で、小学校の二分の一成人式はこれから前を見る視点にはそんなに重きを置いていないのだ、今までを振り返ってやってきたのだという発言が小学校からあった。それぞれ思いが違う。今までこれだけ大きくなってきた、だからこれからどうしようねという部分にどれだけ入っていくかとらえ方が違うので、いろいろなやり方で三つ四つパターンが出ていていいかと思う。

部長

もしかしたら、小中一貫の事例題材集は初めてかもしれない。ほかのところはおいしいアイデアは隠しているので、これを出すとちょっと脚光を浴びるかもしれない。プレス対応もちゃんと上手にやるよう広報に言って頂きたい。

大体ワークシートなどは、扱いたいというので売れ筋が決まる。今こちらの方からも編集関係のレイアウトなど、この辺はゴシックのほうがいいよとか、この辺にちょっと入れたほうがいいよとか、ノウハウを少し頂けるなら頂きながら。今度は表紙やデザインなどだいぶビジュアルなので、お力添え頂けるのではと思う。